

三訂版

上級で  
学ぶ  
日本語

テーマ別

松田浩志  
亀田美保

KENKYUSHA



## まえがき

『中級から学ぶ日本語』『上級で学ぶ日本語』両テキストは、「テーマ別」との愛称で、初版以来20年を超す長きにわたり、国内外の日本語教育機関や地域ボランティア活動の現場などで、指導に当たられる先生方、また学習者の皆さんと多くの方々からご支持をいただいています。

『中級から学ぶ日本語』の方は、2014年に「三訂版」として再改訂をいたし、幸いにして旧版同様に受け入れられ、広く活用していただいております。その後、「テーマ別」をご利用いただいている皆様からは、姉妹編である『上級で学ぶ日本語』の再改訂も是非というお声をいただき、このたび本テキストを出す運びとなりました。

再改訂の詳細は、次ページからの説明に譲りますが、日本語教育の分野では、時代の変化とともに、学習者層、学習ニーズ、さらには学び方などが大きく様変わりしており、このたびの改訂作業においても、それを反映させ大幅な改訂となりました。15課すべての本文を新たに書き下ろすと同時に、本文の長さや使用語数、新規学習項目数の制限、漢字の提出方法などを工夫し、より効率の良い、しかも効果のある日本語学習に役立つことを目指しました。

「テーマ別」出版以来掲げてきた「学習者が身の回りの出来事に興味を持ち、それが動機となりより積極的に日本語学習に取り組んでくれる姿勢を育てる」という編集方針の基本は変えることなく、それに即した構成を目指し、改訂作業を続けてきました。その間、実際に「テーマ別」が使われている日本語教育現場にも足を運び、指導に当たられる先生方とお話をさせていただき、このたびの再改訂版にその結果を可能な限り反映させていただきました。その意味では、当再改訂版はお話をいただいた皆様との共著書でもあり、有意義な示唆、ご助言をいただいたこと心底より感謝いたしております。

『テーマ別 上級で学ぶ日本語』の三訂版が、これまで以上に指導現場で活用され、少しでも日本語教育に資することができれば、著者望外の喜びです。

2016年11月

著者

## 『テーマ別 上級で学ぶ日本語』を使っていただく先生方へ

### 1. 『テーマ別 上級で学ぶ日本語(三訂版)』の概要

#### 1) 対象とする学習者像

『テーマ別 上級で学ぶ日本語(三訂版)』(以下『上級』)は、『中級から学ぶ日本語(三訂版)』(以下『中級』)、あるいは、同程度の日本語学習経験者を想定して編集されています。

具体的には、日常生活での必要なやり取り、学習者自身のことや身近な場所で起こった出来事について説明したり、意見や感想を文にできる段階を経験した学習者です。

#### 2) 『上級』が目指す到達目標

『上級』では、主に、以下の2点を到達目標とします。

- ① 日常身近に体験する出来事や社会的な話題について、自分の感想や考えが理由とともに詳しく説明できること
- ② 異なる視点や考え方を持つ相手とも、興味・関心を持って適切な表現で情報や意見の交換ができること

そして、これらの到達目標を達成するために、学習の過程で次のような技能を伸ばしたいと考えています。

- a) より複雑な文の構造を理解し、適切な接続により、まとまった内容の文でやり取りできること
- b) 文章の構造を理解し、まとまった内容の文章を読み書きできること
- c) 理解できる漢字および語彙を増やすとともに、適切に使用できる漢字や語彙・表現の範囲を広げること
- d) 発話意図、スピーチレベル(書き言葉、話し言葉)、場面などに合わせて適切に表現を使い分けられること
- e) 自らに関係する諸問題について、自分なりの見解を持ち、それを相手が納得するように説明でき、また、異なる視点を持つ者と適切な意見交換ができること

### 2. 『上級』の構成

『上級』は、それに準拠する『ワークブック』(以下、『ワーク』)との併用で、「読む」、

「話す」、「聞く」、「書く」のいわゆる4技能の運用力、応用力を伸ばすことを目指して構成されています。以下に、いくつかの特色と思われる点を説明します。

#### 1) テーマの設定

「語学学習の動機づけの大きな要素のひとつが学習者の興味である」という編集方針に基づいて、『中級』同様、各課に学習者が興味を持つ、あるいは、持ってほしいと考えられるテーマが設定されています。テーマ選択の基準は、学習者同士が、また、教員と学習者が共有できる身の回りにある諸問題を選ぶこととしました。例えば、言葉の役割、健康管理など日常生活と深く関わる問題、無関心社会の形成、平和実現への営みなどの地球規模の問題などを取り上げました。テーマに掲げた問題点を学習者と共有し、日本語学習の更なる動機付けを目指しています。

#### 2) 既習項目と新規学習項目の明確化

新規学習項目は、すべて各課〈読みましょう〉の本文で提出し、その他のセクションでは語彙・表現、文法項目など一切の新規学習項目は出てこないよう構成されています。教える側が学習者の既習項目を把握することによって、教室で教員が口にする耳慣れない表現が、学習者にとっては新規学習項目となることを目指しています。本文で新規に学習した項目は、〈使いましょう〉の例文や『ワーク』内の練習でできるだけ反復練習、応用できるように工夫し、全体の構成が考えられています。

#### 3) 新規学習項目数の制限

各課に新規に導入される漢字数は、多くても30文字前後とし、非漢字圏学習者を考慮しています。下の「各セクションのねらい」〈漢字を練習しましょう〉の項を参照してください。

本文は、以下に詳しく述べるように、新出語彙・表現の数と語数が制限されています。課が進むに従って少しずつ増やす工夫がなされ、原則として応用範囲の広い語彙・表現が取り上げられています。

#### 4) 「会話」の扱い

『中級』同様、『上級』でも、いわゆる「会話」を練習することを目的とした練習は設けられていません。「テーマ別」では、教育現場で学習者に発話の必然性を感じさせる授業が行われ、教員と学習者の間でのやり取りをすることが、真の会話力の養成になるとの考えからです。但し、会話独特の表現を学ぶことは必要であると考え、それは『ワーク』で扱うこととしました。

### 3. 『上級』各セクションのねらい



#### 一緒に考えましょう

各課に設けられたテーマは広範な問題を含むテーマですが、このセクションでは、そのテーマのどこに焦点を合わせて学習を進めるかということを示し、さらに焦点へ誘うような設問を準備しました。単に、質問に答えさせることを目的とせず、学習者が新しいテーマの学習を始めるにあたり、そのテーマについて、その時点でどのような知識を持っているかを、教員側、学習者側双方が確認する形で扱えるような設問が並べられています。

別冊『上級で学ぶ日本語 教え方の手引き』（以下、『手引き』）に、テーマの焦点、〈一緒に考えましょう〉設問の意図が添えられています。



#### 新しい言葉

本文に出てくる順に新出語彙・表現を提示してあります。原則として、本文で使われている形、例えば、「見向きもしない」（4課）は「見向く」という頻度の低い辞書見出しを載せるのではなく、「見向きもしない」という形で載せられています。また、学習者の参考になるように、名詞は、スル動詞として使われる単語には、「移動スル」（2課）と表示し、な-形容詞と呼び習わされている語は「ちぐはぐナ・ニ」（6課）のように表示されています。

さらに、単語としては既習項目であるが、表現としては新規学習項目と考えられる表現（3課「納得がいく」など）は、〈新しい言葉〉に載せています。今回の改訂では、意識的にいわゆる慣用的な表現（2課「耳を澄ます」など）や学習者にとっては難しい擬音語・擬態語の類（1課「きらきら（と）」など）をできるだけよく使われる文脈で紹介することを試みました。

〈新しい言葉〉に新規学習項目として載せられている新出語彙・表現の数は、60～70前後になっています。新出語彙・表現の多さが、学習の障害にならないことを考慮しつつ、より応用範囲の広い語彙・表現の選択が選択されています。尚、指導の現場で、テーマに関連して是非必要と考えられる場合には、学習者のレベルに合わせて（たとえば、5課では意図的に「冤罪」を載せなかったが必要なら）補足していただければと思います。『手引き』には、新出語彙・表現を導入する際の留意点が例をあげて述べられています。

〈新しい言葉〉では、初級段階で既習であろうと考えられる語彙・表現と『中級』での学習項目を既習語彙・表現とし、その中に含まれない項目を新規学習項目として扱っています。但し、食べ物、動植物名、国名などやコンピュータ、ビデオ、コンビニ、スーパーなど既知と考えられる言葉も既習扱いとしました。

「テーマ別」を『上級』から使い始める学習者の中には、〈新しい言葉〉に載せられていないもので未習項目があるかもしれませんが、極めて少数だろうと考えられますが、教室で補足していただければと思います。

〈新しい言葉〉で取り上げた語彙・表現には、既習、未習にかかわらずすべての漢字にルビがふられています。



### 読みましょう

〈読みましょう〉には、①テーマの紹介、②新規学習項目の提示、③読解力の補強という3つの目的を持たせました。上で述べたように、新規学習項目は〈読みましょう〉以外には出てきません。また、各課の本文は、1～7課までは4段落、それ以降は5段落の構成としました。本文全体の長さは、1000～1250文字の長さに収め、課が進むにつれて字数が増える構成になっているのは、上で述べたとおりです。本文中のルビは、新出漢字のすべてに振ることを原則としました。

各課の〈読みましょう〉の音声は、研究社 HP(「研究社 ダウンロード」で検索してください)より無料でダウンロードすることができます。また、『手引き』には、教室でお使いいただけるよう、同内容の音声を収録した CD が付いています。



### 答えましょう

本文の理解度を確かめるために A、B の2つのグループに分け、A では基本的に各段落に関する質問が用意されています。その後、B で、読解力をつけるのに必要と思われる、「行間を読む」類の質問を設け、テーマの趣旨を問えるよう構成しました。



### まとめましょう

A、B に分け、前者では段落ごとにキーワードを与え、〈答えましょう〉の答えを参照して段落のまとめができることを目指しています。B では、A を基に、本文全体をまとめる練習です。A、B とも口頭でまとめをした後、文に書かせる練習ができるようにした練習でもあります。



### 使いましょう

本文で提示した新しい文法項目の練習です。多様な機能を持つ表現も含まれていますが、使用頻度の高い典型的な用法を練習するよう作られています。既習項目であるが活

用できていない項目を取り上げた練習も含まれています。

各項目の例文の中に、( )を付して添えられた部分がありますが、その項目を理解するのに学習者の助けになるのではと考えられた部分です。たとえば、1課〈使いましょう〉Aで取り上げた「～ことなく」の例文には(普通は～はずだが)と入っています。「～ことなく」を使う言い方は、どんな気持ちで、何を伝えようとして使われるのかを考えながら練習できることを目指した注釈です。( )の部分は、学習者が書いたり、口にしてもおかしい文にならないことを考慮して添えられています。

〈使いましょう〉の練習問題には、既習語彙・表現、文法項目を使って例文、練習指示の文が出されています。また、『上級』の先行課で取り上げた練習項目をできるだけ例文等に使い、反復練習につながることを目指されています。学習者が、例文をじゅうぶんに理解し、新規学習項目が何を伝えるための道具として使われるのかを考えながら練習が進められるように構成されています。

漢字の使用については、本文に合わせてあります。たとえば、1課〈使いましょう〉Aの例文3に「合格」という既習語がつかわれていますが、5課で「合(ごう)」の読みを練習するまでは、「ごうかく」とひらがなが使われています。

『手引き』に、上で述べられた( )部分の意図の詳細、〈使いましょう〉の各項目をどこまで、どのように教えればよいと考えられるかなどという点が、練習の解答例とともに詳しく取り上げられています。



## 話しましょう

学習者同士が、口頭でテーマについての意見交換をすることが目的のセクションです。上の「到達目標」で述べた「自分なりの見解を持ち、それを相手が納得するように説明ができ、また、異なる視点を持つ者と適切な意見交換ができる」力を養うセクションです。テーマに関する情報を交換して話すことによって、テーマに関する考えを深めると同時に会話の力を伸ばすことも目的としています。最終的に、ここでの成果も含めて、作文課題として使うことも目的としたセクションです。



## 漢字を練習しましょう

『上級』は、小学校で学ぶ教育漢字と中学校で学ぶ常用漢字が使われています。(「亡くなる」(表外読み)や「大人」(熟字訓)など目にする頻度の高いいくつかの例外があります。)

各課の〈漢字を練習しましょう〉には、A欄に新出の漢字、B欄に文字は知っているが読みが新しいと考えられる漢字が並べられています。学習者も、上級の段階になると漢



字の習得数、習熟度など多様だと思われまゝるので、一応の目安として設けられたセクションです。取り上げた漢字数は、約 360 字でそのうち約 250 が A として取り上げられています。

新出漢字を選ぶ際に、初級段階並びに『中級』で学んでいるであろうと考えられる漢字は既習扱いとした点は、〈新しい言葉〉と同様です。

# 目 次

まえがき iii

「テーマ別 上級で学ぶ日本語」を使っていたく先生方へ iv

第 1 課	しる	〈初めての雪〉.....	1
第 2 課	いたわる	〈春の一日〉.....	8
第 3 課	ならう	〈そば屋の先生〉.....	15
第 4 課	よみとる	〈記事の裏側〉.....	22
第 5 課	さばく	〈裁判員のもやもや〉.....	29
第 6 課	うやまう	〈ガイドさんの宗教〉.....	36
第 7 課	ふせぐ	〈並ぶ文化〉.....	43
第 8 課	もてなす	〈ローソクの島〉.....	50
第 9 課	よびかける	〈一茶の目〉.....	57
第 10 課	えらぶ	〈自らの選択〉.....	64
第 11 課	いかす	〈もったいない話〉.....	71
第 12 課	つなぐ	〈折り鶴〉.....	78
第 13 課	たのしむ	〈なりわい〉.....	85
第 14 課	きたえる	〈健康な社会〉.....	92
第 15 課	いきる	〈ひとつの地球〉.....	99

〈使いましょう〉練習項目一覧 107

索 引 113

# 第1課

# しる



## 新しい言葉

やれやれ(と)	<sup>の</sup> 伸びをする	ひらひら(と)スル	<sup>ま</sup> 舞う
<sup>と</sup> 飛び出す	かなたニ	かけら	めがける
<sup>て</sup> 手のひら	<sup>ふ</sup> 触れる	<sup>なん</sup> 何とも	
<sup>おも</sup> (思いに)とられる	みるみる	<sup>ま</sup> 増す	
～といわず～といわず		<sup>そ</sup> 染める	( <sup>た</sup> 立ち)尽くす
<sup>あ</sup> 飽きる	きらきら(と)スル	すがすがしい	まるつきり
きゅっきゅっ(と)	<sup>あしもと</sup> 足元	<sup>はず</sup> 外す	そっと
<sup>の</sup> 乗せる	<sup>しき</sup> 四季	( <sup>こころ</sup> 心が)ときめく	
ヒューヒュー(と)	～かのようナニ	～ことなく	<sup>お</sup> 下ろす
<sup>いのち</sup> 命を落とす	<sup>あと</sup> 後を絶たない	<sup>お</sup> 押しつぶす	( <sup>み</sup> 身) <sup>ひそ</sup> 潜める
<sup>く</sup> 暮らし[←暮らす]	<sup>し</sup> 強いる	<sup>ぎもん</sup> 疑問	～を <sup>とお</sup> 通して
<sup>どうが</sup> 動画	～たところで	<sup>ちしき</sup> 知識	<sup>いちぶ</sup> 一部
～でしかない	つくづく	<sup>おも</sup> <sup>し</sup> 思い知る	
<sup>いちめん</sup> <sup>てき</sup> 一面(的ナニ)	～ <sup>かぎ</sup> 限り	～ことはあっても、(～ない)	



## 一緒に考えましょう

- ① 最近、「初めて」何かを経験したことがありますか。
- ② それはどんなことでしたか。そのときどう思いましたか。
- ③ インターネットで調べたことを信じますか。



## 読みましょう

### 初めての雪

図書館で授業の準備を終え、やれやれと伸びをしたとき、窓の外でひらひら白い物が舞っているのに気がついた。雪だ。帰り支度もそこそこに、外へ飛び出すと、空のかなたから白いかけらがこちらをめがけるように、次から次へと落ちてきて、ほおや手のひらに触れては消えていく。「これが雪か」と何とも不思議な思いにと  
5 らわれているうちに、周りの景色がみるみる変わっていく。勢いを増した雪が、ベンチといわず木といわず、辺りを白一色に染めていた。私は、しばらくその場に立ち尽くして、生まれて初めての雪を飽きずに眺めていた。

次の日、窓の外の白い世界が、朝の陽を受けてきらきら輝いていた。家を出ると、空気がすがすがしい。毎日通う大学への道が、いつもとはまるっきり違っていた。  
10 歩くたびに、きゅっきゅっと足元で雪が鳴る。子供たちが作ったのか、途中に雪だるまがあった。手袋を外し、そっと触れてみる。横に並ぶポストは雪の帽子をかぶっている。雪を少し手に取って、舌に乗せる。味はしないが、冷たい。四季のはっきりしない暑い所で育った私には、心がときめく思いの朝だった。

しばらくたって、何日間か太陽が顔を見せず、ヒューヒューと空が泣いてでも  
15 いるかのような日が続き、休むことなく雪が降った。交通機関が動かなくなり、大学も何日間か授業がなくなった。窓の外の町は、何もかもが止まってしまったように見えた。テレビは、雪が原因の交通事故で何人けがをした、屋根の雪を下ろそうとして、お年寄りが亡くなったと、毎日雪のニュースを伝えている。後で知ったことだが、こうした事故で命を落とす人が毎年後を絶たないということだ。白  
20 一色の世界で、雪に押しつぶされそうになりながらも、身を潜めるようにして生きる人たちがいる。雪には、厳しい冬の暮らしを強いる、もうひとつの顔があることを知った。

これまで何か疑問に思うと、ついインターネットを通して答えを得ようとしてきた。日本へ来る前に、雪景色やスキーの様子も、絵や動画を見て、知っていた。  
25 しかし、初めての雪を経験して、何をどう利用したところで、得られるのは知識の一部でしかない、つくづく思い知らされた。物事の表面的、一面的知識で納得している限り、自分の世界を狭くすることはあっても、物事の本当の姿を知ることではできないのだ。物を知るとはどういうことなのか、初めての雪に教えられた気がする。

## 答えましょう

### A

1. 筆者はどんな人ですか。
2. 「これが雪か」(4行目)というのは、筆者のどんな気持ちを表していますか。
3. 「いつもとはまるっきり違っていた」(9行目)と言っていますが、どのように違っていたのですか。
4. 「もうひとつの顔」(21行目)というのは何ですか。
5. 「何をどう利用したところで」(25行目)とはどんな意味でしょうか。

### B

「物事の表面的、一面的知識で納得している限り、自分の世界を狭くすることはあっても、物事の本当の姿を知ることはできないのだ」(26-28行目)という筆者の言葉を、「雪景色やスキーの様子」を例にして説明してください。

## まとめますよう

**A** キーワードを使って、それぞれの段落をまとめましょう。

段落	タイトル	キーワード
1	初めて見た雪	図書館、雪、生まれて初めて
2	雪の朝	朝、違う、心がときめく
3	雪のもうひとつの顔	雪、命を落とす、冬の暮らし
4	物を知るといこと	経験、知識、物を知る

**B** 〈まとめましょう A〉を使って、本文全体を短くまとめましょう。



## 使いましょう

### A 「～ことなく」という言い方を練習しましょう。

#### 例文

1. ずいぶん前に旅行先で出会った人が（普通は忘れてしまうはずだが）毎年私の誕生日を忘れる **ことなく** カードを送ってくれる。
2. 猫が大好きな妹は、休みの日になると、（普通はすぐに飽きてしまうはずだが）何時間も飽きる **ことなく** 猫と遊んでいる。
3. 2つの会社の試験にごうかくした。1つは社員10数名の小さい会社だが、責任のある仕事をさせてくれるというので、（普通はまようはずだが、）私はまよう **ことなく**、この会社に入ることにした。

#### 練習

#### 例のように文を作ってください。

例：いろいろなことを頼まれれば、普通はいやな顔をするだろう。

⇒事務所の山下さんは学生たちから何を頼まれても、いやな顔をする **ことなく**、いつも笑顔で聞いてくれる。

1. 普通は電車やバスが遅れることもある。  
⇒日本の交通機関は、\_\_\_\_\_ **ことなく**、  
\_\_\_\_\_ **ので**、驚いた。
2. 普通は誰かにそうだんするものだ。  
⇒新しく入った社員は、わからないことがあっても、\_\_\_\_\_ **こと**  
**なく**、\_\_\_\_\_。
3. \_\_\_\_\_ **は** \_\_\_\_\_ **ことなく**、\_\_\_\_\_。

### B 「～たところで」という言い方を練習しましょう。

#### 例文

1. （間に合うと思っているようだが）タクシーで行った **たところで**、今からではもう飛行機の時間に間に合わないだろう。
2. （失敗することを心配しているようだが）1度や2度失敗した **たところで**、怒るような部長ではないから、今の開発を続ければいい。

3. (後のことを気にしているようだが) 君が2、3日休んだところで問題ないから、心配せずに父親の見舞いをしてくれればいい。

**練習**

例のように文を作ってください。

例：手術を受けたら助かると思っているかもしれないが、(そうではなくて) 安心していられる状況ではない。

⇒高齢の父が手術を受けたところで、助かるとは思えない。

1. 熱心に勉強すればじょうずになると思うかもしれないが、そうではない。

⇒50歳を過ぎた母が \_\_\_\_\_ ところで、フランス語会話が \_\_\_\_\_ とは思えない。

2. 先生に頼めば受けられると思うかもしれないが、そうではない。

⇒A：試験を受けさせてもらえるよう、先生にもう一度頼んでみたら。

B： \_\_\_\_\_ ところで、試験に遅れたのは僕が悪いんだから、 \_\_\_\_\_ とは思えないよ。

3. 心配しているようだが、大きな台風でもだいじょうぶだ。

⇒この建物は \_\_\_\_\_ から、 \_\_\_\_\_ たところで、 \_\_\_\_\_。

4. \_\_\_\_\_ たところで \_\_\_\_\_。

**C 「～限り」という言い方を練習しましょう。**

**例文**

1. 夜遅くまでゲームを続けている限り、(何もかも今のままで) 朝は時間通りに起きられません。
2. ふたりで撮られた写真が存在する限り、(状況は今のままで) お互いを知らないと言ったふたりの話はうそだということになる。
3. ここで生活している限り、(今のままで何も変わらないから) 安心していればいい。

**練習**

例のように文を作ってください。

例：夜遅くまでアルバイトをしなければ、勉強の時間が取れるだろう。

⇒夜遅くまでアルバイトをしている限り、勉強の時間は取れないだろう。

1. じしんが起こったときは、みんなと一緒にいなければ、心配だろう。  
⇒じしんが起こったときでも、\_\_\_\_\_ 限り、\_\_\_\_\_。
2. じっさいに行ってみれば、その風景の良さがわかるだろう。  
⇒インターネットできれいな風景を見ても、\_\_\_\_\_ 限り、  
\_\_\_\_\_。
3. \_\_\_\_\_ 限り、\_\_\_\_\_。

## D 「～ことはあっても、(～ない)」という言い方を練習しましょう。

### 例文

1. 部下に厳しく言い過ぎると、嫌われることはあっても、そんなけいされることは  
ない(から、あまり厳しく言わない方がいい)。
2. 寝る時間が短ければ、体の調子が悪くなることはあっても、仕事があまくいく  
わけではない(から、寝た方がいい)。
3. ルールさえ守ってやれば、小さな間違いをすることはあっても、大きな間違い  
をすることはない(から、自信を持った方がいい)。

### 練習

例のように文を作ってください。

例：情報を集める方法を知っておいた方がいい。

⇒情報を集める方法を知っておけば、役に立つことはあっても、困ることはない。

1. お酒を飲み過ぎない方がいい。  
⇒お酒を飲み過ぎると、\_\_\_\_\_ ことはあっても、  
\_\_\_\_\_ ことはないから気を付けた方がいい。
2. できるだけ運動した方がいい。  
⇒運動をしないと、\_\_\_\_\_ ことはあっても、  
\_\_\_\_\_ ことはない。
3. \_\_\_\_\_ ば、\_\_\_\_\_ ことはあっても、  
\_\_\_\_\_ ことはない。





## 話しましょう

1. ぜひ本物を見てみたいと思っている物、人、場所などがありますか。  
それは何、誰、どこですか。どうしてそう思いますか。
2. 初めて経験して、それまでの理解が変わったことがありますか。



## 漢字を練習しましょう

### A 新しい漢字

授業[じゅぎょう]

舞う[まう]

尽くす[つくす]

飽きる[あきる]

帽子[ぼうし]

降る[ふる]

後を絶たない[あとをたたない]

潜める[ひそめる]

暮らす[くらす]

疑問[ぎもん]

### B 新しい読み方

触れる[ふれる]

後[あと]

強いる[しいる]

## 第2課

# いたわる



### 新しい言葉

おも あ 思い当たる	こえ うわ 声が上ずる	はし 端	い どう 移動スル
せき あ (席を)空ける	な こえ 鳴き声	みみ す 耳を澄ます	ぼかぼか(と)スル
はる (春)めく	ひ ざ 日差し	ま なか 真(ん中)	かんちが 勘違いスル
てちょう 手帳	か こ (書き)込む	さいちゅう 最中ニ	たまたま
め あ 目が合う	せき ゑず (席を)譲る	～からして	いかにも
ほやほや	わき 脇	しよるい 書類	きよう 器用ナ・ニ
はさ 挟む	め とお 目を通す	とりひき 取引スル	で む 出向く
せき た 席を立つ	む 向かう	けはい 気配	す ちが 擦れ違う
さい ～際ニ	こえ (声を)かける	め もど (目)戻す	さりげない
ふ ま 振る舞い[←振る舞う]		じんわり(と)	むね (胸に)しみる
それにしても	み し 見ず知らず	もってのほか	せだい 世代
いたわり[←いたわる]		よぼよぼ(と)スル	～ずにはいられない
ないでもない	ぎすぎす(と)スル	よ なか 世の中	とげ
ひいては	うるお うるお 潤い[←潤う]	～というものではない	
ひび 日々	こつこつ(と)	～にもまして	



### 一緒に考えましょう

- ① 町で困っている人を見たことがありますか。それはどんな人ですか。
- ② 町で困っているお年寄りを助けたり、手伝ったりしてあげたことがありますか。それはどんなときでしたか。
- ③ 町で見ず知らずの人に親切にしてもらったことがありますか。それはどんなときでしたか。